

肝臓通信

発行 田中内科クリニック



Vo 1.05

H28年10月号



秋晴れの心地よい季節となりましたね (*^^*)
朝晩は冷え込むようになってきましたので、体調を崩さないようお過ごしくださいね。
さて、今回は肝がんの原因の15%を占める、B型肝炎についてお話しさせていただきます*

B型肝炎とは

B型肝炎は、血液を介してB型肝炎ウイルス（HBV）に感染することによって発症します。HBVが肝臓内にすみつき、感染が持続している状態を「HBVキャリア」と呼びます。日本には約130万人のキャリアがいると推計され、日本人の約100人に1人がHBVキャリアと言われてます。HBVキャリアの中でも、症状や肝機能異常の全くない状態を「無症候性キャリア」、「非活動性キャリア」と呼びます。

B型肝炎はこの状態でも、**肝硬変や肝がんを発症することもあるのが大きな特徴**です。HBVは、一度肝臓にすみつくと体内から完全にいなくなることはなく、キャリアの人は慢性肝炎や肝硬変、肝がんの発症を防ぐために**定期的に肝臓の状態をチェックすることが必要**です。また、慢性肝炎を発症しても、適切な治療(抗ウイルス治療)により病気の進行を防ぐことができるので、**継続して治療を受けることが重要**となります。

つまり、
B型肝炎は**油断大敵**
な疾患なのです！



フー。検査を怠ってはいけませんぞ〜

B型肝炎の治療について

B型慢性肝炎の場合は、ウイルスを体から排除することはほぼ不可能で、治療の目的は「**肝硬変への進展や発がんを抑えて長生きすること。**」となります。抗ウイルス治療として、主に**核酸アナログ製剤(飲み薬)**が使われます。ウイルスが肝臓の中で増えるのを抑え、肝臓の機能を改善させる飲み薬です。しかし、ウイルスを完全に体から追い出すことはできないため、**自分の判断で薬をやめたりすると、体に残っているウイルスが再び増え始め、症状が悪くなってしまいます。**そのため、医師の指示に従い、きちんと飲み続ける事が大切です。

B型慢性肝炎に対する**核酸アナログ製剤治療も医療費助成の対象**になっています。詳細はスタッフにお聞きください。

感染を防ぐためには

B型肝炎ウイルスは、血液を介して感染します。日常生活でいくつかの注意事項を守っていれば、周囲に人に感染することはほとんどないことから、過度に神経質になる必要はありません。



赤ちゃんのB型肝炎ワクチン

B型肝炎を予防するための0歳児に対するワクチンが、2016年10月1日から原則無料の定期接種となりました。4月以降に生まれた乳児が対象で3回の接種を行います。3歳未満の乳児がB型肝炎ワクチンに感染すると、キャリアになる危険性がずっと高くなります。赤ちゃんが生まれただけできるだけ早いうちにワクチンでウイルスから守ることはとても大切なことです。



母子感染予防についてはこれまでと変わりません。これまでと同様B型肝炎ウイルスキャリアの母体から出生した赤ちゃんは、出生直後(生後12時間以内)に免疫グロブリンとワクチンの接種を行います。

- ①血液が付着する可能性のあるカミソリや歯ブラシなどの共有はさける。
- ②献血は絶対しない。
- ③ほかの病気で病院に行った時、また歯科治療の際は、医師にB型肝炎であることを告げる。
- ④出血した時には、できるだけ自分で手当てをし、血液のついたものはむき出しにならないよう包んで捨てる。
- ⑤乳幼児に口移しで食べ物を与えない。
- ⑥性交渉で感染するため、パートナーには自前に説明し、パートナーが免疫を持っているか検査し、免疫がない場合にはあらかじめワクチンを接種してもらうようにしましょう。

